

# 木村貞次郎氏台湾語関係著作目録抄（四訂稿）

—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—

（令和 4（2022）年 7 月 30 日（土）現在）

（補正経緯）

平成 12（2000）年 1 月 5 日（水）初稿<sup>1</sup>作成

（HP 初出）平成 19（2007）年 11 月 30 日（金）改訂稿作成

平成 26（2014）年 11 月 12 日（水）再訂稿作成

（一部補正、（追記）を追加）

平成 26（2014）年 11 月 30 日（日）三訂稿作成

（退官時の記載を一部追加、補正、その他

一、二修正）

平成 29（2017）年 9 月 26 日（火）四訂稿作成

（著作を追加）

令和 4（2022）年 7 月 30 日（土）五訂稿作成

（レイアウト全面変更、一部補正、追加）

## 〔目 次〕

|                        |   |
|------------------------|---|
| 1 はじめに                 | 1 |
| 2 木村貞次郎氏のこと            | 2 |
| 3 木村貞次郎氏台湾語関係著作目録稿     | 4 |
| [木村貞次郎氏著作目録稿 1]        | 4 |
| [木村貞次郎氏著作目録稿 2]        | 7 |
| [木村貞次郎氏著作目録稿 3]        | 7 |
| （追記）                   | 7 |
| 【附録】本 HP 掲載鷺巣敦哉氏関係資料一覧 | 7 |

## 1 はじめに

いつの時代、いかなる地域においても、語学教養の重要性はいうまでもないが、日本統治下の台湾警察においても、個々の警察官の台湾語（福建語、閩南語、ただし、新竹等一部地域では客家語〈日本統治期には一般に広東語といていたが、本来の広東語は別種の言語である。〉）の教養が、領台当初より重視されてきていた。もとより一般の内地人は殆ど日本語で事足りたのであるが、警察官と教員は、その職責上台湾語に通曉する必要が

---

<sup>1</sup> その後一部を「日本時代台湾警察語学教養の一齣—木村貞次郎氏によせて—」『警察政策学会ニューズレター』第 8 号（平成 14 年 11 月刊）〈<http://www.asss.jp/>〉として転載した。（平成 26 年 11 月 12 日追加）

あったという。

このうち、警察では、巡查初任教養の際はもとより、補充教養の折も、最も語学に力が注がれ、熟達の方に対してはそれぞれ昇進の方法を講ずる他、試験制度を設け、これに合格した者のうち過半数に対しては、通訳兼掌を命じ、修得の程度に従い手当を支給するなど、奨励に力を尽くしていた。特に大正中期以降の社会情勢の進展により、本島人の政談演説会が台湾語でなすのが認められたことに伴う治安警察法による取締対応<sup>2</sup>の強化のため、大正 12 (1923) 年 8 月、台湾総督府警察官及司獄官練習所（以下「練習所」。）に語学特科が新設され、一層の充実が図られた。その後、時代が下るにつれて、国語（日本語）普及が次第に進捗したが、警察官に台湾語の知識はあくまで必要なものであった。これらのことは、朝鮮警察においても同様であったという<sup>3</sup>。

## 2 木村貞次郎氏のこと

上記語学特科を担当した練習所教官中とりわけ注目されるのは、東方孝義氏（1889～1957）と木村貞次郎氏（ていじろう、1894～1980）のお二方である。このうち、東方氏については、『台日新辞書』（台湾警察協会、昭和 6 年 1 月 14 日刊）、『台湾習俗』（台北・高等法院検察局通訳室同人研究会、昭和 17 年 10 月 30 日刊）という有名な著書<sup>4</sup>もあり、また、既に中島利郎教授（1947～）による周到な御研究<sup>5</sup>があるので、ここでは木村氏について一、二触れておくこととしたい<sup>6</sup>。

木村氏は、明治 27 (1894) 年 1 月 14 日福岡県筑紫郡塔原（現筑紫野市二日市西）で生れ、除隊後渡台し、大正 6 年 (1917) 7 月練習所乙科を修了する。桃園庁（後の新竹州）に赴任、職務で台湾語をかなり修得し、大正 12 (1923) 年 9 月上記語学特科の第一期生として入所、東方氏等の指導を受け、二年の課程を首席で修了、大正 15 (1926) 年 4 月 21 日練習所教官（判任教官〈後、兼台湾総督府警部、その後兼台北州警部〉）となる。昭和 2 (1927) 年に東方氏が台中地方法院に転出した後は、唯一の日本人教官として昭和 13

---

<sup>2</sup> 同法は大正 12 (1923) 年 1 月 1 日より台湾にも一部施行。

<sup>3</sup> 朝鮮警察語学関係のものとして、例えば、梶井陟（わたる、1927～1988）『朝鮮語を考える』（龍溪書舎、昭和 55 年 1 月 15 日刊。改定：昭和 59 年 10 月刊。）参照。

<sup>4</sup> いずれも 1997 (平成 9) 年 12 月に台北・南天書局より復刻された。

<sup>5</sup> 中島利郎先生は、東方氏の著作年譜を作成されておられたが、最新のものとして、「東方孝義著作年譜」『岐阜聖徳学園大学外国語学部中国学科紀要』第 3 号（平成 12 年 3 月 31 日刊）がある。

<sup>6</sup> 木村氏御息女の木村美津氏（1921～2004）に「父木村貞次郎の思い出」（『新竹警友会報』第 219 号（平成 13 年 8 月 5 日刊）。後に『鷺巣敦哉著作集』別巻（緑蔭書房、平成 14 年 1 月 31 日刊）439 頁以下に収録。）がある。この他、『新竹警友会報』第 18 号（昭和 52 年 4 月 10 日刊）、同第 53 号（昭和 55 年 3 月 10 日刊）、同第 61 号（昭和 55 年 11 月 10 日刊）、同第 219 号（平成 13 年 8 月 5 日刊、最終号）に関係記載がある。

⇒（下記平成 26 年 11 月 12 日追加）木村氏の台湾総督府における履歴につき、HP「台湾総督府（官）資料庫」〈<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>〉検索のこと。

(1938)年11月まで14年の長きにわたって台湾語を担当し、温厚な人柄、熱心な指導により、台湾の多数の警察官にはなじみの深い人物であった。同年11月5日台湾総督府属(警務局勤務)に転じ、同17日兼任で同所奏任教官(高等官七等)に昇格し<sup>7</sup>、翌11月18日退官した<sup>8</sup>。直ちに海軍占領下の厦門に共栄会(日華親善機関)主事として赴任、昭和19年まで在職する。終戦は台北で迎え、昭和21(1946)年3月出身地に引き揚げる。当初は苦勞されたようであるが、昭和30、40年代には地元の筑紫野町(昭和47<1972>年4月1日市制施行)町議、町議会議長<sup>9</sup>にまでなられ、昭和55年(1980)10月11日逝去された。享年86。鉄牛という雅号を持つように、体力にもすぐれ、練習所乙科時代は來台した大相僕の序二段の力士に勝ったという逸話が残っており、厦門時代にはゴルフも楽しまれたという(平成26年11月30日一部補正)。

木村氏に関しては、『台湾警察時報』等雑誌論稿はかなりあるものの、東方氏のように単行著作を出していないため、あまり知られていないが、日本統治下台湾警察の語学教養史を考える上で忘れ得ぬ人物であり、今後更に検討していくべきかと思われる<sup>10</sup>。

---

<sup>7</sup> 従来木村美津氏の御教示により「同年春警視に昇任して高等官となり、同年11月18日退官」と記載してきたが、平成26年11月さる識者の御示教で、高等官は昭和13年11月17日台湾総督府属で警察官及司獄官練習所の兼任奏任教官としての地位であることが判明したので訂正した。これは退官時の優遇措置とのことである。(平成26年11月29日追加)

(下記平成29年9月26日追加)

従七位勲八等 木村貞次郎

昭和14年1月16日 叙勲七等授瑞宝章『台湾総督府報』第3482号 昭和14年1月18日

<sup>8</sup> 退官頃の任免事項等を上記HP「台湾総督府(官)資料庫」に基づき、一、二記載すると、次のとおりである。(<<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>>) (平成26年11月29日追加)

昭和12年12月26日 給三級俸(『府報』第3168号、昭和12年12月26日(日))

昭和13年5月〇日 叙従七位(『府報』第3283号、昭和13年5月19日(木))

昭和13年11月5日 任台湾総督府属、給三級俸 警務局勤務ヲ命ス(保安課)(『府報』第3437号、昭和13年11月18日(金))

昭和13年11月17日 兼任台湾総督府警察官及司獄官練習所教官 叙高等官七等(『府報』第3437号、昭和13年11月18日(金))

昭和13年11月18日 依願免兼官 台湾総督府属兼台湾総督府警察官及司獄官練習所教官(内閣)(『府報』第3493号、昭和13年11月20日(日))

同日 依願免本官 台湾総督府属(『府報』第3493号、昭和13年11月20日(日))

昭和14年1月16日 叙勲七等授瑞宝章(『府報』第3482号、昭和14年1月18日(水)) (これのみ平成29年9月26日追加)

<sup>9</sup> 木村貞次郎氏の筑紫野町議会議員、同議長在任期間は、次のとおりである。

・筑紫野町議会議員:

第1期 昭和34(1959)年5月25日～同38(1963)年5月24日

第2期 昭和38(1963)年5月25日～同42(1967)年5月24日

・同町議会議長: 昭和42(1967)年3月11日～同年5月24日

(筑紫野町制施行: 昭和30年3月1日、市制施行: 同47年4月1日)

<sup>10</sup> 以前に少しく木村氏に関する資料収集をしたことがあるが、詳しくはここでは省略する。

### 3 木村貞次郎氏台湾語関係木村貞次郎氏著作目録稿

[木村貞次郎氏著作目録稿 1]

木村貞次郎氏の著作については、時折話題となる『福建語辞典』（公刊されたか否かは不明）等多々あると思われるが、残念ながら詳らかではない。ここでは、まず、平成 11 年 9 月 1 日の時点で、中島利郎・林原文子編『『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』（緑蔭書房、平成 10 年 8 月 25 日刊）<sup>11</sup>により、両誌に掲載されたものを抽出しておくこととした。なお、前述のように、木村氏は、「鉄牛」という号を使っておられた由であるので、「木村鉄牛」、「鉄牛生」名儀のものも含めておいた。氏は体が丈夫でスポーツ万能であられたので、そのような号をつけられたといわれる。

(平成 11 (999) 年 9 月 1 日作成)

表題 号数 発行年月日 執筆者名

『台湾警察協会雑誌』

- ・通訳兼掌甲種試験問題を見て 第 114 号 大正 15/ 12/ 1 鉄牛生

『台湾警察時報』（昭和 5 (1930) 年 1 月号より改称)

- ・福建語の研究 第 206 号 昭和 8/ 1/ 1 木村貞次郎
- ・福建語の研究 209 昭和 8/ 4/ 1 同
- ・福建語の研究 210 昭和 8/ 5/ 1 同
- ・福建語の研究 211 昭和 8/ 6/ 1 同
- ・福建語の研究 212 昭和 8/ 7/ 1 同
- ・福建語の研究 213 昭和 8/ 8/ 1 同
- ・福建語の研究 214 昭和 8/ 9/ 1 同
- ・路上所見 215 昭和 8/10/ 1 鉄牛生
- ・福建語の研究 215 昭和 8/10/ 1 木村貞次郎
- ・福建語の研究 216 昭和 8/11/ 1 同
- ・槍弧を見て 217 昭和 8/12/ 1 鉄牛生
- ・福建語の研究 217 昭和 8/12/ 1 木村貞次郎
- ・鬼火は飛ぶ 218 昭和 9/ 1/ 1 鉄牛生
- ・福建語の研究 218 昭和 9/ 1/ 1 木村貞次郎

---

<sup>11</sup> 両誌は、一時期台湾で復刻されるといわれたが、最終的には、国立中央図書館台湾分館（現国立台湾図書館）所蔵本を基に、マイクロ資料「『台湾警察協会雑誌』第 1 号～149 号（大正 6 年～昭和 4 年）、『台湾警察時報』第 1 号（通巻第 150 号）～第 335 号（昭和 5 年～昭和 18 年。昭和 5 年より『台湾警察時報』に改名。欠号、第 326～328 号）28 リール 16mm 国立中央図書館台湾分館員工消費合作社 2002 年刊（日本代理店）雄松堂」として刊行されている。

- ・福建語の研究 219 昭和 9/ 2/ 1 同
- ・福建語の研究 220 昭和 9/ 3/ 1 同
- ・ナンセンス人生を語る 221 昭和 9/ 4/ 1 鉄牛生
- ・福建語の研究 221 昭和 9/ 4/ 1 木村貞次郎
- ・福建語の研究 222 昭和 9/ 5/ 1 同
- ・福建語の研究 223 昭和 9/ 6/ 1 同
- ・福建語の研究 224 昭和 9/ 7/ 1 同
- ・福建語の研究 226 昭和 9/ 9/ 1 同
- ・福建語の研究 227 昭和 9/10/ 1 同
- ・福建語の研究 228 昭和 9/11/ 1 同
- ・福建語講習資料 229 昭和 9/12/ 1 同
- ・福建語講習資料 230 昭和 10/ 1/ 1 同
- ・福建語講習資料 231 昭和 10/ 2/ 1 同
- ・福建語講習資料 232 昭和 10/ 3/ 1 同
- ・福建語講習資料 233 昭和 10/ 4/ 1 同
- ・福建語講習資料 234 昭和 10/ 5/ 1 同
- ・福建語講習資料 235 昭和 10/ 6/ 1 同
- ・福建語講習資料 236 昭和 10/ 7/ 1 同
- ・福建語講習資料 237 昭和 10/ 8/ 1 同
- ・福建語講習資料 238 昭和 10/ 9/ 1 同
- ・福建語講習資料 239 昭和 10/10/ 1 同
- ・福建語講習資料 240 昭和 10/11/ 1 同
- ・福建語講習資料 241 昭和 10/12/ 1 同
- ・鼠の祖先 242 昭和 11/ 1/ 1 鉄牛
- ・福建語講習資料 242 昭和 11/ 1/ 1 木村貞次郎
- ・福建語講習資料 243 昭和 11/ 2/ 1 同
- ・福建語講習資料 244 昭和 11/ 3/ 1 同
- ・福建語講習資料 245 昭和 11/ 4/ 1 同
- ・福建語講習資料 246 昭和 11/ 5/ 1 同
- ・福建語講習資料 247 昭和 11/ 6/ 1 同
- ・福建語講習資料 248 昭和 11/ 7/ 1 同
- ・福建語講習資料 249 昭和 11/ 8/ 1 同
- ・福建語講習資料 250 昭和 11/ 9/ 1 同
- ・福建語講習資料 251 昭和 11/10/ 1 同
- ・福建語講習資料 252 昭和 11/11/ 1 同
- ・福建語講習資料 253 昭和 11/12/10 同
- ・福建語講習資料 254 昭和 12/ 1/ 1 同
- ・福建語講習資料 255 昭和 12/ 2/ 1 同
- ・福建語講習資料 256 昭和 12/ 3/ 1 同

- ・福建語講習資料 257 昭和 12/ 4/ 1 同
- ・福建語講習資料 258 昭和 12/ 5/ 1 同
- ・福建語講習資料 260 昭和 12/ 7/12 同
- ・福建語講習資料 261 昭和 12/ 8/10 同
- ・福建語講習資料 262 昭和 12/ 9/15 同
- ・福建語講習資料 263 昭和 12/10/15 木村鉄牛
- ・福建語講習資料 264 昭和 12/11/10 同
- ・語学推奨方法と通訳兼掌手〈ママ〉手当の改廃問題 265 昭和 12/12/ 5 鉄牛生
- ・福建語講習資料 265 昭和 12/12/ 5 木村鉄牛
- ・福建語講習資料 268 昭和 13/ 3/ 5 同
- ・無題記 268 昭和 13/ 3/ 5 鉄牛生
- ・甲種語学試験を了へて 270 昭和 13/ 5/ 5 木村貞次郎
- ・福建語講習資料 270 昭和 13/ 5/ 5 木村鉄牛
- ・無題記 270 昭和 13/ 5/ 5 鉄牛生
- ・福建語講習資料 271 昭和 13/ 6/ 1 木村鉄牛
- ・無題記 271 昭和 13/ 6/ 1 鉄牛生
- ・三伯・英台（編者註：福建語小説の対訳） 272 昭和 13/ 7/ 5 木村鉄牛
- ・福建語講習資料 273 昭和 13/8/ 10 同
- ・無題記 273 昭和 13/8/ 10 鉄牛生
- ・福建語講習資料 274 昭和 13/ 9/ 1 木村鉄牛
- ・福建語講習資料 275 昭和 13/10/ 1 同
- ・福建語講習資料 276 昭和 13/11/ 5 同

[木村貞次郎氏著作目録稿 2]

木村貞次郎氏の著作については、その後、平成 11（1999）年 10 月に至り、又々中島利郎先生より『台湾語学研究会会報』に次の御著作がある旨御教示を受けた。この時点で知り得たのは、第 49、50、54 号の 3 冊のみであるが、同誌は、木村氏が編輯人であったことから、他の号にも多々存在するものと思われる。今後の課題である。なお、上記には、東方孝義氏の寄稿も多い<sup>12</sup>。

表題 号数 発行年月日 執筆者名

『台湾語学研究会会報』（発行所・台湾総督府警察官及司獄官練習所内台湾語学研究会、発行人兼編輯人・台北市南門町 5 丁目 8 番地 木村貞次郎）

---

<sup>12</sup> これについては、中島利郎前掲「東方孝義著作年譜」『岐阜聖徳学園大学外国語学部中国学科紀要』第 3 号（平成 12 年 3 月 31 日刊）参照。

- ・解釈の研究 第 49 号 昭和 5/ 4/ 1 鉄牛生
- ・会員異同 第 49 号 昭和 5/ 4/ 1 鉄牛生
- ・会員消息 第 49 号 昭和 5/ 4/ 1 鉄牛生
- ・編輯だより 第 49 号 昭和 5/ 4/ 1 鉄牛生
- ・台湾事情 第 50 号 昭和 5/ 7/24 鉄牛生
- ・質疑応答 第 54 号 昭和 6/ 8/12 鉄牛生

[木村貞次郎氏著作目録稿 3] (平成 29 (2017) 年 9 月 26 日追加)

木村貞次郎氏の著作で上記以外で判明したものを掲載しておく。

- ・「思い出 一、二」九州・山口台湾総督府警友会『台湾の思出』第 1 号 (明治百年記念) (九州・山口台湾総督府警友会、昭和 43 年 11 月 17 日刊) 66～67 頁 (口絵に昭和 43 年頃の写真あり。同書には大澤兼太郎 (鷺巣敦哉義兄、最後の花蓮港警察署長) 「思い出」 (74～77 頁) 等あり。第 2 号以降は発行されずか。)

(追記)

- \* 『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書 (続) ・雑誌所収著作補遺 (続) ・索引』刊行の件 (平成 26 年 11 月 12 日追加)

平成 26 (2014) 年夏に至り、多くの方々の御助力を得て『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書 (続) ・雑誌所収著作補遺 (続) ・索引』 (緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊) を刊行できた。同書に、本稿とも関連する『警察試験叢書第四編・警察語学試験問題及解答集』 (法院通訳 元練習所教官東方孝義氏 (1889～1957) との共著、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊 (抄録)) の他、『警察試験叢書第一編・向上受験の手引き 附 全警察試験問題』 (自己出版、昭和 9 年 7 月 31 日初版刊 (未収録)、昭和 14 年 9 月 6 日改訂版刊 (抄録)、巻頭に当時の督府警務局警務課長森田俊介氏 (1899～1980) の「序文」あり。) 及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』 (昭和 19 年 1 月刊 (抄録)) 等を収録し得た。

これについて、本 HP 別稿『鷺巣敦哉著作集 補遺』 (緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊) 概要」 ( <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf> ) (HP 初出: 平成 26 (2014) 年 11 月 7 日 (金) 初稿作成) 中で一、二紹介したので、併せ御参照いただければ幸甚である。

- \* 片岡巖氏関係文献 (平成 26 年 11 月 12 日追加)

- ・沖内辰郎 (1976～) 「沖内辰郎 履歴プロフィール」『台湾研究通信』第 67 号 (東京台湾の会、平成 26 年 12 月 9 日刊) 17～18 頁 (近刊予定)
- ・ブログ「よろしく台湾風俗誌です」 (片岡巖: 1876～1930、『台湾風俗誌』 (台湾日日新報社、大正 10 年 2 月刊) の著者)

( <http://blog.goo.ne.jp/randomnote/e/16a95d4a20297046f94f8a75f26dd49f> )

- \* 富田哲氏関係文献 (平成 26 年 11 月 12 日追加)

( <http://www.tfjx.tku.edu.tw/info/10> )

\*黄馨儀氏関係文献（平成 26 年 11 月 12 日追加）

〈<http://researchmap.jp/vickyhyh/>〉

\*\*\*\*\*

【附録】本 HP 掲載鷺巣敦哉氏関係資料一覧（令和 4（2022）年 7 月 30 日追加）

・「鷺巣敦哉氏と『台湾総督府警察沿革誌』の編纂について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu001.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏著作目録抄—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu002.pdf>〉

・「『鷺巣敦哉著作集 補遺』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）概要—日本統治下台湾警察史の一齣—」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉

・「『鷺巣敦哉著作集』V（「雑誌所収著作」：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）、同別巻（「警察試験叢書・雑誌所収著作補遺・索引」：同、平成 14 年 1 月 31 日刊）及び『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（同、平成 26 年 7 月 31 日刊）所収論稿一覧—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukiko.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏著『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』（台湾警察協会、昭和 18 年 9 月 20 日刊）・雑誌『台湾地方行政』比較対照表（三訂稿）—『鷺巣敦哉著作集』IV（『台湾統治回顧談（台湾の領有と民心の変化）』：緑蔭書房、平成 12 年 12 月 10 日刊）参考資料— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisukaiko.pdf>〉

・「東方孝義・鷺巣敦哉両氏共編『警察語学試験問題及解答集』（警察試験叢書第四編、自己出版、昭和 10 年 11 月 30 日刊）の再発見—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/higashikata001.pdf>〉

・「鷺巣敦哉氏『警察試験叢書第一編・向上受験の手びき 附 全警察試験問題』及び台湾総督府警察官及司獄官練習所『練習生必携』（昭和 19 年 1 月刊）—警—最近台湾再発見の日本統治下台湾警察史関係希観書二題— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisutebiki.pdf>〉

・「村上収氏の御逝去を悼みて—『台湾総督府警察沿革誌 第二編 領台以後の治安状況 中巻—台湾社会運動史—』編纂過程の究明によせて— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/murakami001.pdf>〉

・「木村貞次郎氏台湾語関係著作目録抄—日本統治下台湾警察語学教養の一齣—」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kimura001.pdf>〉

（了）